

あなたの難かしい人・・・書評

「統合失調症を理解したい人のために」

北山大奈著          プリメド社   淀川区宮原 4-4-63

新大阪千代田ビル別館          06-6393-7727

1600 円+税

統合失調症は、従来「精神分裂症」と呼ばれた。人口のおよそ1%程度に認められる。・・・いずれにせよ、病気の問題・理解が困難で、なぜなら一種類の症状だけでなく、きわめて多彩な症状を呈する疾患だからである。だから、「分裂症」と呼ばれてもおかしくない患者もなかにはいる。そして精神的に荒廃してしまう患者もいる。著者言う、人口の0.5~1%というのは、「統合失調症がありふれた病気であることを示しています。にもかかわらず、市民は患者さんを珍奇な人、不可解な人として見ているように感じます。」以下勝手にまとめさせてもらおうと、統合失調症患者の脳の活動は、別に異質な機能のものではないが、多少の違いのものであり、言ってみれば個体差の範囲内のものである。そういう個体差、バリエーションがあるから、人類は全体として環境の変化に適応し、種として存在す

ることができる。……バリエーションがもたらす社会的不利は、克服が強要されるべき対象ではない。そのような人も暮らしやすくなるように援助されるべき対象なのです。

以上が著者の基本的な姿勢である。

「家族のかたから統合失調症についての解説書の紹介を頼まれることが少なくありません。

たくさんの啓蒙書が出ていますが、専門書のダイジェスト版といった内容のため、一般市民には理解しにくかったり、文学的な「こころの病」論であったりで、これはというものは見あたりません。それで自分で書いてみることにしました。」（筆者思うに、このあたりのレベルの高さがまずすごいところである。）

一読、なるほど従来のもとは一線を画している。統合失調症は、**Schizophrenie** を訳した時に、要するに概念をとらえきれないので、とりあえずそういう患者もいる、ということで命名された。

（訳したひとが分裂していたのかもしれないが。）これを、スキゾフレンニーと言おうとした人がいたのだが、まったくの馬鹿。ドイツ語やラテン語なのだから、その素養のない日本人には理解できないし、**Schizo-**はシゾである。スキゾなどという発音はないし、第一病名

がカタカナでは余計にわかれへんやないか。アホか！

ボクが読んでいて、これだと思ったのは、「市民は、結果から患者の病状の重症度を評価しがちですが、それは誤りです。結果の大小と、病状の重軽は比例しません。結果が軽くすむか、大変なことになるかは偶然の巡り合わせです。」

その他、豊富な経験を背景にいろんなケースについての説明があり、読んでいて退屈しない。ボクは一気に読んだ。そして繰り返し読んだ。

「まず、統合失調症の人を病名でひとくくりにする考えを排して下さい。病名は同一であっても、症状や進行度はさまざまです。その人が必要とする援助を適切に行なうために、状態像をよく観察して下さい。」とも言う。

また妄想や幻覚は、この病気でなく、正常と思われている人にもあるし、まとまりを欠く発言など（小生のみならず）あちこちで見られることではないか。

われわれが学生の頃、精神科の実習にいくと、この医師は統合失調症ではないか、ということが結構あった。つまり「正常と異常」との境界はきわめて不明瞭なもので、いわゆる線引きができないの

である。……まあ、そんな境界領域のヤツがそんな科にいくなよ、  
という気もするが、毎日々々そのような人と話していると、自分で  
もわからなくなる可能性はある。……小生個人は、血液学などより  
り精神科志望であった。ところが、友人たちが、「お前だけはやめと  
け！」と口を揃えて言うので断念したものである。

ここがもっとも大切なところなのであるが、全編を通じて、この  
疾患患者に対する著者の思い入れというか「やさしさ」がひしひし  
と伝わってくることである。ともすればわれわれは敬遠しがちな疾  
患であるのに、暖かく包み込むようなほのぼのとした感覚が紙面か  
ら溢れ出てくる。

自殺を企図する患者に対しても、できるだけの援助を惜しまない  
努力のあとが垣間見える。

小生も何人か何十人かの患者を紹介させてもらって、「困った時の  
〇〇先生頼み」などと結構利用させていただいた。

この著者は斯界においても名文家として文章力・表現力には定評  
がある。いかにもそのとおりだと感じたものである。

2009.05.08.